

解剖訓蒙 營養器論 九



Y994-J10255  
\*1200901349500\*

509

丁  
九十九号



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

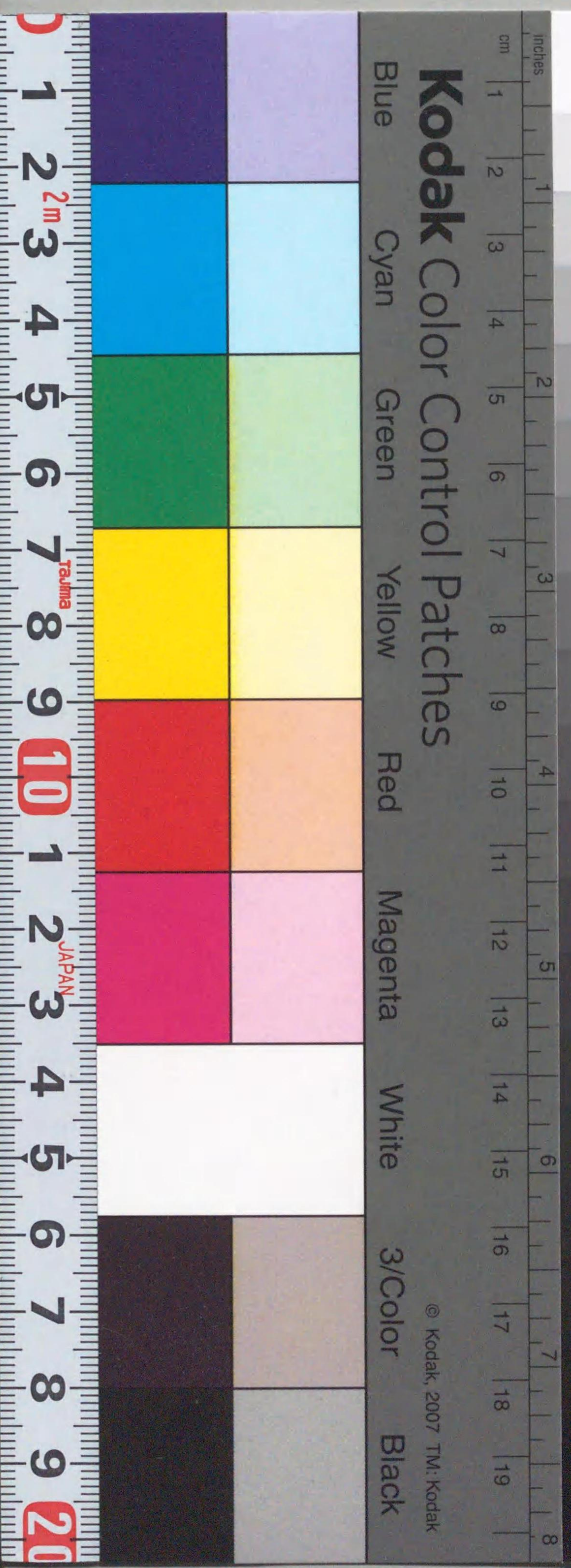


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

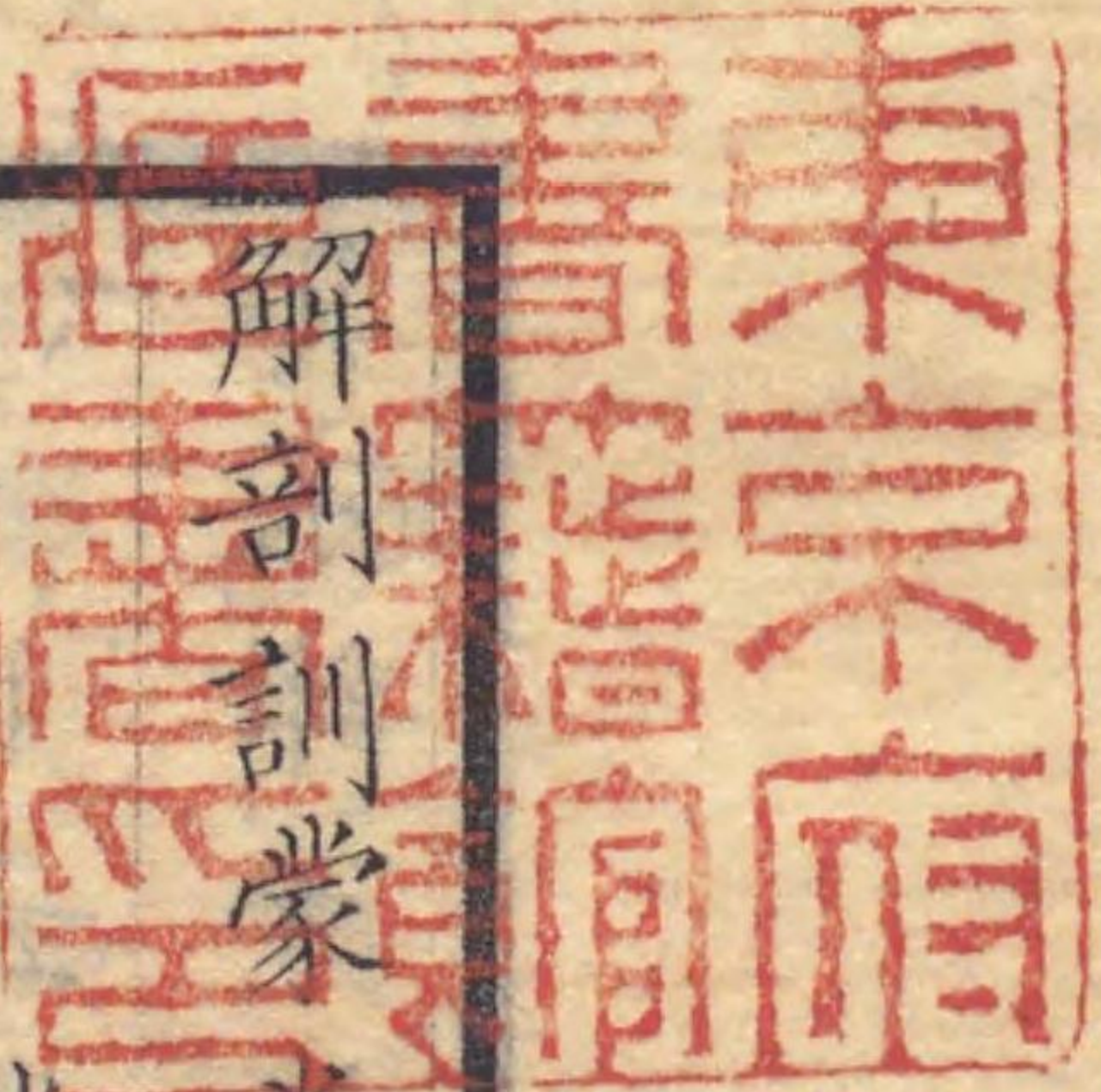
© Kodak, 2007 TM: Kodak







Y994  
J10255



解剖訓蒙 卷之九

米利堅

解剖學教頭約瑟列第著

日本

文部省出仕村治重厚譯

胃

胃マツクハ、巨大ノ筋膜囊ニシテ、腹内ニ藏居シ、

胃管ヨリ小腸ニ彌ルニ營養管中ノ最廣部ニシテ、

壁ヨリ液ヲ釀製シ、以テ其貯蓄セシ食物ヲ、化學

的ニ變化セシム其形式ハ、圓錐狀ニシテ上方ニ

彎曲シ、左方ヨリ、右方ニ斜渉ス其位置、左肋下部

ニ占據シテ、上腹部ヲ超ヘ、右肋下部ノ一部ニ及

甲  
ストマコス



I 種  
W



\*1200901349500\*



上方ニ横膈、肝、下方ニ横行結腸、右方ニモ肝、左方ニ脾、前方ニ腹壁、後方ニ膈アリテ關係セリ  
通常胃ヲ論スルニ、大小端、大小灣、前後面、上下口ノ諸部ニ區別ス

甲カルデア

大端セ、グリート、エキハ、左ニ在リ、甲上口セ、カルデア

乙ピロロス

并ヲ以テ胃管ニ通シ、乙小端セ、トリサルト、エキハ、右ニ在リ、乙下口セ、ピロリスヲ以テ小腸ニ通ス

丙カルデサック

大端ハ、胃管ノ數「乙インチ」左ニ挺出ス、之ヲ丙盲囊セ、

丁パルルスピロリカ

ストト云フ小端又々乙幽門端セ、トリサルト、エキハ、

其末部ニ於テ、略ホ二「乙インチ」間、稍々縮小セリ、之

甲アントロムピロリ

ヲ甲幽門洞セ、ピロリクムト云フ

乙カルデアトリス

小灣セ、レサ、カルハ、上後方ニ向キ、小綱爰ニ附着

丙カルデアトリス

大灣セ、グリート、カハ、前下方ニ向キ、大綱ノ前

層爰ニ附着ス

前面セ、アンテリハ、前上方ニ向シ、後面セ、ポスト

スハ、下後方ニ向テ、横膈、脾、十二指腸、左腎ニ觸接

ス、容量ハ、膨脹ノ度ニ由テ、差等アレ、通常一乃

至二「乙インチ」ヲ納ル可シ、丈ケハ、九乃至十二「乙

インチ」幅ハ、最廣ノ處ニテ、四乃至五「乙インチ」アリ

壁ハ、四層ヨリ構成シ、皆十結締組織ニテ、互ニ相



甲  
タニカセローサ

密着ス即チ清膜層、筋層、纖維組層、粘膜層是ナリ  
清膜層セ、シトハ、最外ニ在テ、腹膜ヨリ來レリ  
菲薄透明ニシテ、胃ヲ親密ニ被包ス但シ大小ノ  
兩灣ニテハ、細狹ノ間隙ヲ貽シ、以テ血管、水脉、神  
經ノ諸幹ヲ居ラシム

乙  
タニカマスモローザ

筋層セ、マトハ、淡紅ナル無紋纖維ノ三層ヨリ  
構成シ、其層各方向ヲ異ニス外層又セ、エキステ、ハ  
縦纖維ニシテ、胃管ノ縦纖維ト聯續シ來リ、放線  
狀ヲ為シテ布達ス、而テ其線兩灣特ニ小灣ニ沿  
テ、最モ多ク、前後ノ面ニテハ、唯タ薄布スルノミ

甲  
スライクタルローリ

中層セ、ミトハ、環纖維ニシテ、前者ヨリモ多ク  
一樣ノ容ニテ、須要ノ者トス、而テ其始メ、盲囊ノ  
部ニテハ薄久、幽門端ニ近クニ隨テ、逐次ニ集積  
シ、終ニ下口ニ至テ、厚キ小筋束ト為レリ、之ヲ幽門  
括約筋セ、ピト云フ、内層セ、イト云フ、  
ハ、斜纖維ニシテ、胃管ノ環狀纖維ト聯續ス、而テ  
先ツ左方ニテ、一ノ廣帯ヲ造成シ、上口ヲ圍擁シ  
テ、右下方ニ斜行シ、前後ノ面ニ布達ス、  
纖維層セ、イト云フ、ハ、厚キ粘膜下組織ニシテ、擴  
張ス可キ一層ナリ、胃ノ強剛ナル所以ハ、特ニ是

乙  
タニカスローザ



甲 夕ニカミコトサ

ニ憑依ス

粘膜層セ、ミウコ即チ裏面ノ膜ハ、柔軟ホルプロノ  
 如クニシテ、淡赤灰色ナリ興奮、乃チ消化ノ時ノ  
 如キニ於テハ、赤色ヲ増ス、又々炎症ニ罹レハ、濃  
 紅色ニ變ス亦々盲囊ニテハ薄キモ、幽門端ニ近  
 クニ隨ヒ、増厚シテ一「テ」イ「ン」ノ四分三ヨリ一「ラ  
 イ」ニ至ル通常、幽門端ニ於テ、無數ノ振轉セル  
 網狀ノ起線、即チ皺シワルリクヲ呈セリ、其大ナル者  
 ハ、皆チ縱行シテ、盲囊ニ向ヒ、漸次ニ狭ヒ此皺  
 ハ、胃ノ收縮ニ由テ、其數ト大サヲ増加シ、開展ニ

乙 リューギー

甲 ヲル。夕々ヒロリ

ロ クランゴリ、ガスト

由テ減少シ、若クハ、全ク喪ハスルニ至ル  
 下口ニ於テ、厚キ環狀ノ皺襞アリ、或ハ時トシテ  
 一對ノ半月狀皺襞ヲ具ヘ、辨ノ作用ヲ為ス、故ニ  
 幽門辨セ、ヒロリト云フ此皺襞ニ、厚キ小筋束ヲ  
 含有ス、是レ所謂幽門括約筋ヲ造成スル者ナリ  
 粘膜ノ遊離面ハ、幽微ノ小乳房狀ヲ呈シ、悉ク腺  
 口ニテ、微細ニ穿孔ス而テ圓柱狀内皮ヲ具ス、此  
 皮ハ、上ニ上口ヨリ始リ、下モ營養管ノ諸部ニ全  
 涉ス、  
 胃腺セ、ガストトゾリ、ハ、管狀ニシテ、粘膜ノ厚積中ニ



縦テニ密布ス一般ハ單一ニテ殆ト直立シ或ハ  
 稍ヤ迂行シ其丈ケ上口ヨリ下口ニ至ルニ隨ヒ  
 漸次ニ増加ス是レ胃粘膜上ヨリ下モニ増厚ス  
 ル所以ナリ或ハ上下兩口ノ近傍ニ複合スル者  
 アリ一箇ノ宗管ヨリ構成シテ其根蒂ハ二乃至  
 四箇ニ分離セリ  
 件ノ腺ハ其裏面悉ク圓柱狀内皮ニテ被覆ス此  
 皮ハ粘膜ノ者ト異ナラス然レモ多分ハ其深部  
 ニ稍ヤ大ナル圓形或ハ多角形ノセルヲ具ス此  
 セル腺口ニ向ステ漸次ニ圓柱狀内皮セルニ化

成ス

胃ハ管狀腺ノ他、幽門端ニ於テ、數箇ノ微細ナル  
 葡萄狀腺ヲ具有ス又々間、腸ノ撒布腺ニ類似セ  
 シ、數箇ノ白キ小圓物ヲ見ルアリ

胃ハ、甚々血管ニ富メリ、其血管ハ、胃ニ附着スル  
 網膜ノ線路ニ沿テ來達ス血管中、胃腸網動脈ハ、  
 二幹相待テ、大灣ニ沿ヒ、第一ノ弓線ヲ造成シ、冠  
 動脈ト、幽門動脈ハ、小灣ニ沿フテ、第二ノ弓線ヲ  
 造成シ、短胃動脈ハ、盲囊ニ達ス以上血管ヨリ、悉  
 ク胃ノ面ニ分支シテ、膜層間ニ入り血管網ヲ形







各特異ノ性ナキニ非ス

甲  
空腸トリキロス、ダ  
セシタリアートス、

十二指腸

ケ略ホ十二指腸横徑ナリ、胃ノ下口ヨリ始マリ、右

後方ニ上行シテ、胆嚢ノ頸ニ達シ、頓ニ下行シテ、

右腎ノ前ヲ經過シ、次ニ第二ノ腰椎ニ對シテ、左

側ニ轉シ、空腸ニ終レリ

上行部ハ、前上方ニ肝ト胆嚢アリ、通常、死後ニハ、

胆嚢ヨリ滲出セシ、胆汁ニテ滲着ス、下行部ハ、左

方ニ臍頭附着シ、下部ノ内ニ、臍ノ排泄管ト、総胆

管ト相合シテ、開コメリ、横行部ハ、横行結腸網膜

甲  
子ステス、  
乙  
イリオン、

空腸

ノ後ニ在リ、蜂巢組織ニ由テ、横膈脚ト、脊椎柱前

ニ存スル血管トニ附着ス、其上縁ニ沿フテ臍ア

リ、而テ上腸間膜血管ハ、臍ノ下方ヨリ、此部ノ終

末ヲ横過ス

空腸及ヒ廻腸

シテ、前腸ヨリ、大腸ニ至ルノ間ナリ、其兩個ノ分

界ハ、着明ナラサレ、甲ハ其五ノ二分、乙ハ三分

ナリ、空腸ハ廻腸ヨリモ濶ク、且ツ捏捻スルニ、稍ヤ厚

キヲ覺フ、是レ其粘膜ノ皺襞、許多ナルニ坐セリ、



加之、攢簇腺ナキヲ以テ、亦々其一徵トス。廻腸ハ、右腸骨部ニ終リ、大腸ト聯合スルヲ、殆ト直角ナリ。小腸ノ壁モ、亦々胃ノ如ク、四層ノ膜ニテ構成ス。即チ清膜層、筋層、纖維層、粘膜層是ナリ。外層、即清膜層ハ、腹膜ヨリ轉來シテ容包シ唯々管腸間膜附着ノ部ニ沿フテ、狹隙ヲ存シ以テ血其神經ノ通路ト為スノミ然リ而テ、十二指腸ハ、兩端、腹膜ニテ被包シ、下行及ヒ横行部ノ多分清膜ニテ被包セラレス。

甲  
ブリーシヨコヴェニテス

筋層ハ、二層ノ淡紅ナル無紋纖維ヨリ構造シ其外層ハ、薄布セシ、經纖維ヨリ成リ、内層ハ、比スレハ厚ク、且ツ著明ナル緯纖維ヨリ成ル、纖維層ハ、胃ノ者ヨリ薄シ、然レモ強ク且ツ擴張ス可シ

粘膜層即チ裏面ノ膜ハ、胃ノ者ニ比スレハ、菲薄ニシテ赤色ナリ、亦々圓柱状内皮ヲ具シ而テ無數ノ半月状ノ横皺襞ヲ造呈ス、之ヲ甲半月小瓣乙ト云フ此皺襞、小腸ノ上部ニテハ、最モ多ク且ツ廣クシテ、彼此ノ縁、互ニ襲蔽スルニ



甲  
フロキヨリ

至ル而下部ニ届ルニ随テ數幅俱ニ漸次ニ減  
 少シ終ニ廻腸ニ至テハ愈分明ナラス以テ喪亡  
 セリ此皺襞ハ恒存ノ者ニシテ腸壁ノ収縮ヨリ  
 成ルニ非ス其作用ハ吸收分泌ノ面積ヲ増廣シ  
 且ツ食物ノ通過ヲ緩徐ニセシム  
 小腸ノ粘膜ハ其半月小瓣モ共ニ滿面悉ク微細  
 ノ隆起ヲ具ヘリ之ヲ腸瓣リト云フ是故ニ其裏  
 面ハ剪絨状ヲ呈ス試ニ一部ヲ截取シ粘液ヲ清  
 刷シテ之ヲ水底ニ置ケハ其狀瞭然ト看取ス可  
 シ此瓣ハ小腸ノ上部ニ於テ微細ノ蛇行狀皺襞

ヲ為シ通渉ノ際間間斷シ又々屢網眼状ヲ為シ  
 テ聯續ス下方ニ届ルニ隨ヒ其間斷甚々頻數ニ  
 シテ廻腸ニ至レハ其瓣終ニ扁平圓錐状若クハ  
 舌樣ノ隆起ト為レリ

腸瓣ハ其嵩サ一ラインノ四分之一乃至三分一ア  
 リ構造ハ粘膜ノ隆起スル者ニ他ナラズ圓柱状  
 内皮ヲ具ヘ又々自形ト同一ノ毛細管網ヲ含有  
 ス其他水脈ノ始端ヲ含有ス之ヲ乳糜脈ト云フ  
 然レモ其脈ノ由テ起ル法方ハ未々詳明ナラス  
 一説ニハ腸瓣毎ニ一二ノ盲枝ヲ以テ始ムトシ







甲 グラシエリトイヘリ

遊離核、顆粒物ヲ含蓄シ、微細ノ血管、其内部ニ透  
 過セリ、其効用ハ、未タ詳ナラス  
 攢簇腺テ、エ、グ、ミ、子、ド、グ、ラ、ン、ジ、又タ「ベ、イ、エ、ル、腺、ハ、前種ニ  
 同キ、胞状物ノ相集ル、橢圓形ノ斑ニシテ、十五乃  
 至三十箇存シ、其丈ケ、半「イ、ン、チ、乃至二「イ、ン、チ、幅  
 ハ、略ホ半「イ、ン、チ、アリ通常、廻腸ニ占據シテ、恒ニ  
 腸間膜附着ノ部ニ相對向シ、腸ノ縦經ト并行ス  
 班ノ大ナル者ハ、多分ハ、廻腸ノ下部ニ在リ、而テ  
 上行スルニ隨ヒ、互ニ遠離シテ、細小且ツ環状ト  
 為ル、若シ空腸ニ存スルモ、小且ツ少ナリ

此腺ハ、腸ノ裏面ニテハ、粘膜面下ニ凹陷スレモ  
 表面ニテハ、稍ヤ隆起セリ、半月小辨ノ此腺ニ近  
 邇スルヤ、通常、間斷スレモ、或ハ、之ヲ超ヘテ過ル  
 モ、大サヲ減シ、多ク換轉ス効用ハ、未タ詳ナラ  
 ス、唯タ「タ、井、ホ、イ、ド、熱ノ如キ、疾病ニ於テ、著シク  
 變化アルハ、目撃スル所ナリ  
 小腸ノ動脈ハ、數多アリテ、脾、十二指腸、幽門、上腸  
 間膜ノ諸動脈ヨリ來レリ、腸間膜ヨリ、腸ニ分布  
 シテ、其膜層間ニ、血管網ヲ造成シ、粘膜、筋、清膜三  
 層ノ毛細管網、此ヨリ出ツ、靜脈ハ、動脈ト伴行セ



以水脉ハ、數多ニシテ、其源、三箇ナリ、即チ彼ノ諸  
動脈ヲ受ケシ處ヨリ轉來ス、神經ハ、交感系ノ大  
陽藪ヨリ來レリ、

大腸

大腸甲 セ、ラ、イ、ン、ハ、圓柱狀ノ管ニシテ、其巨大  
ナルト、囊狀ナルトヲ以テ、全ク小腸ト區別スヘ  
シ、其丈々、略ホ五「フ」トアリテ、小腸ヨリ、肛門ニ  
至ルノ際、殆ト腹肚ヲ廻繞シ、結腸網膜ニテ維持  
ス、其位置、右腸骨窩ニ始リ、右腎ノ前ヲ上行シテ、  
肝ノ下部ニ至リ、次ニ臍廓部ノ上邊ヲ横過シテ、

甲  
インテステールノム、  
イラシム、

左肋下部ニ至リ、次ニ左腎ノ前ヲ下行シテ、左ノ  
腸骨部ニ至リ、爰ニS字狀ニ廻轉シテ、後チ尻骨  
盤内ニ降り、薦骨ノ前ヲ下行シテ、肛門ニ終ル之  
ヲ區別シテ、三部トス、即チ盲腸、結腸、直腸是ナリ  
盲腸コ、セ、ム、シ、又タ結腸頭セ、コ、ヘ、ト云ハ、大腸ノ  
最廣部ニシテ、巨囊ヨリ造為シ、右腸骨部ニ占據  
シテ、廻腸終末部ノ下ニ在リ、其位置ヲ維持スル  
ニ、腹膜皺襞ノ前部ヲ縱轉スル者ト、寛祐ナル結  
締組織ノ腸骨窩ニ附着スル者トヲ以テス、然レ  
モ時トシテ、後部ニ腹膜ノ皺襞アリテ、維持ノ度



甲  
アベンデキユラセルミ  
フラーミム

乙  
コロム

解部訓蒙

卷之九

三

又尋常ヨリモ、更ニ寛祐ナラシム其丈幅俱ニ、略  
ホニ「イン」半ニシテ、根蒂ニテハ、内後方ニ彎曲  
シ、頓ニ縮狭シテ、蟲狀ノ延展部ト為ル之ヲ虫様

垂セ、ザルミヲム、ト云ヘリ  
アベンデキス

虫様垂ハ、丈ケ四五「イン」寸太サ、驚翅管許ニシテ、  
通常、稍ヤ螺旋シ、腹膜皺襞ニ由テ、其旋際ヲ保定  
込内經ハ狭ク、壁ハ比スレハ厚ク、構造ハ他ノ諸  
部ニ異ナラズ下等族ニハ、盲腸甚タ延展スル者  
アリ、畢竟、虫様垂ハ、其萌芽ト謂フ可シ。

結腸セ、コロムハ、大腸ノ第二部ニシテ、最モ長ク、盲

甲  
コロムハセデンス

腸ヨリ、直腸ニ達ス其通過ノ部ニ隨フテ、之ヲ「上  
行横行」下行「S字状屈曲」ト云フ其幅徑ハ、始端ニ  
テハ、最モ潤ク、略ホニ「イン」寸半アリ、而テ漸次ニ  
狭小シ、終端ニテハ、「イン」寸ニ過キス三列ノ囊  
ヲ具ヘテ、三條ノ縦帯ト相ヒ隔居ス、但シ此帯ハ、  
同一距離ニ存シテ、虫様垂ノ根蒂ヨリ出ツ囊間  
ノ縮小部ヲ、腸ノ内方ヨリ着レハ、其壁、宛モ半月  
状皺壁ヲ成セリ

上行結腸ガ、セ、コロムハ、腹ノ右側ニ占據シ、寛

祐ナル、結締組織ニ由リ腹壁ノ后部ニ附着シ、且

解部訓蒙

三



甲  
コロロンダラニス  
モルソム

ソ兩側及ヒ前方ニ、腹膜經過シ、以テ維持ス。后方  
ハ、方腰筋及ヒ腎、前方ハ、小腸ト相關係ス。  
**横行結腸** ルゼ、タラニス、コロロンハ、臍廓部ノ上邊ニ於テ、  
斜ニ腹肚ヲ横過ス。乃チ兩端ハ、兩肋下ノ后部ニ  
密着ス。レヒ、中部ハ、弓狀ヲ為シテ前進シ、横行結  
腸網膜ニテ寬提ス。上ニ肝、胃、下ニ小腸アリ、而テ  
大綱ノ后層ハ、其外縁ヨリ下行ス。  
**下行結腸** ルゼ、コロロンハ、腹ノ左側ニ占據シ、結  
締組織ト、兩側及ヒ前方ニ經過ス。ル腹膜トニ由  
テ腹壁ノ后部ニ密着ス。上部ハ、脾ト親接シ、其後

乙  
コロロンダラニス

甲  
フレキシニラ、シグ  
モイ、デア

乙  
フインクタルイン

方ニ、左腎及ヒ方腰筋、前方ニ、小腸アリ。  
**結腸** S字狀屈曲 ルゼ、シグモイドハ、S字狀ニ振轉  
ス。ル部ニシテ、腹膜ノ廣襞ニ由テ、左腸骨窩ニ附  
着ス。是レ結腸ノ最狹部ニシテ、囊狀ヲ為ス。モ、亦  
々淺小ナリ、而テ左薦腸縫合ニ對シテ、通腸ニ終  
レリ。  
**廻結瓣** ルゼ、イリコハ、結腸ノ左側内ニ向開セ  
シ、廻腸ノ口ニ存ス。此、一對ノ半月狀皺襞ナリ、而  
テ其廻腸ノ口ハ、宛モ盲腸ノ上ニ在リ。此兩瓣ハ、  
彼ノ口縁ニ横居シテ、結腸内ニ挺出シ、乃チ遊離



縁ヲ相近邇ス其縁ハ各凹陷シテ、兩端共ニ狹集セシ皺襞ト為メ、以テ結腸ノ内面ニ少ク進延セリ兩辨ノ間隙ハ楕圓ナル孔ヲ存ス、然レモ閉鎖スルモハ、遊離縁互ニ觸接シ、以テ物塊ヲシテ、大腸ヨリ、小腸内ニ逆行セザラシム

清膜層ハ、腹膜ヨリ來リ盲腸ト、結腸ノ上下西行部ト、後部ヲ除ク、他ハ悉ク密包シ其包進ノ

行路ニ於テ、不整ナル囊狀物、一列ニ懸垂シ、脂肪

ヲ含蓄ス、之ヲ副網膜副網膜アゼ、エピプロイスクト云フ

筋層ハ、亦々二層ノ淡紅ナル無紋纖維ヨリ構成

甲  
アベンデキユリエヒ  
アローイシ

外層ノ經纖維ハ、蟲様垂ニ於テハ、一様ノ一層ヲ形成ス、レモ、后チ相聚合シテ、更ニ三條ノ帶ト為リ、各帶ノ距離、同一度ニシテ、盲腸及ヒ結腸ノ全徑ニ沿涉セリ此帶ハ、其腸身ニ比スルニ、極メテ短短ナリ、故ニ腸ヲシテ、其囊狀ヲ保タシムルノ用ヲ為シ、而テ内層ノ筋纖維ハ、環狀ニシテ、盲腸ニ於テモ、聯續ノ一層ヲ造為シ、其囊間ノ縮小部及ヒ廻結辨ノ皺襞中ニモ沉入ス、纖維層ハ、小腸ノ者ニ異ナラズ、粘膜ハ、柔軟滑澤ニシテ、淡赤灰色ナリ、而テ腸辨



ヲ具ヘス、又囊間ノ縮小部ニ造為スル皺襞ノ他  
 ハ更ニ一ノ皺襞ヲ有セス其遊離面ハ悉ク微細  
 ノ穿孔即チ篩狀ヲ呈シテ彼此ニ白斑ノ小點ア  
 リ而テ柱狀内皮ト管狀腺ダゼ、ヒエ、ラ、撒布腺セ  
ガリ、タリ、トヲ具有ス、其管狀ノ者ハ粘膜ノ厚積  
 中ニ密併羅列シテ遊離面ニ穿孔狀ヲ呈シ、撒布  
 ノ者ハ即チ撒布白點ヲ以テ徵知ス可シトス、此  
 腺ハ其造構總テ小腸ノ者ニ異ナラス  
 盲腸及ヒ結腸ノ血管ハ腸間膜動脈及ヒ靜脈ノ  
 分支ナリ、水脈ハ血管ノ行路中ニ存セル腺ニ通

甲  
 ト  
 イ  
 テ  
 ス  
 テ  
 ノ  
 ム  
 レ  
 ヅ

ハ神經ハ、交感系ノ腸間膜叢ヨリ來レリ  
 大腸ノ第三部、即チ直腸ハ、其性、多ク特異ナルヲ  
 以テ、別章ニ舉ケサルヲ得

直腸

直腸トセ、レクハ、大腸ノ終末部ニシテ、左薦腸縫合  
 ニ對シテ、結腸ノS字狀屈曲部ノ下ヨリ始リ、薦  
 骨及ヒ尾底骨ノ中線ニ沿ヒ、乃チ其兩骨ノ彎曲  
 ニ隨テ下行シ、尾底骨ノ尖點ヨリ、后下方ニ向轉  
 シテ、肛門ニ終ル内面ニ、半月狀皺襞ヲ具フルヲ  
 以テ、通常ハ、三個ノ縮小部ヲ造レ、結腸ノ如ク、



甲  
ボ  
ー  
デ  
キ  
ス

囊狀ヲ為サズ丈ハ、六乃至八「インチ」アリ擴張ス  
ル代ハ、恰モ研棒形ノ如ク、上方ハ狹小シ、下方ハ  
其縮小ニテ肛門ト為ル前ニ於テ開展ス、前方ニ、  
男子ハ膀胱、精囊、攝護腺アリ、婦人ハ子宮腔アリ  
肛門<sup>甲</sup>ニセ、スアハ、擴張スヘキ一孔ニシテ、尾底骨端ノ  
略ホ一「インチ」下ニ在リ、括約筋ニテ周匝シ、下方  
ハ薄キ闇色ノ皮膚ニテ被ヒ、其皮膚、漸次ニ昇テ、  
直腸ノ粘膜ニ化成セリ、此皮膚ハ、休息ノ時ハ、皺  
襞ヲ呈スレ、凡、泄尿作用ノ際ハ、翻展シテ、肛端ノ  
粘膜モ露出スルニ至ル

解音言蒙  
卷之九  
七

直腸ノ上部ハ腹膜ニテ被包、此膜ノ皺襞、即チ  
所謂直腸網膜<sup>クセ、トムソレ</sup>ヲ以テ、薦骨ニ附着セリ  
此腹膜ハ、直腸ノ前及ヒ側部ヲ被覆シテ、下方ニ  
延布シ、終ニ唯夕前部ニ沿フノミニテ、更ニ翻轉  
シ、乃チ男子ハ膀胱、婦人ハ腔子宮ニ達ス、下部ハ  
腹膜ニテ被覆セズ、許多ノ脂肪組織ヲ混在スル、  
蜂窝組織ニテ、隣接部ニ附着セリ  
腹膜ノ被覆ナキ部ハ、前方ニ於テ、男子ハ膀胱底  
精囊、攝護腺ト觸接シ、婦人ハ腔ト觸接ス  
筋層ハ他腸ノ者ニ比スレハ、甚タ厚シ、外層ハ亦

解音言蒙  
卷之九  
七



甲  
マスキヨロススインク  
アインテルス

夕經纖維ニシテ、結腸ノ縱帶ヨリ來リ、而テ著キ  
聯續ノ一層ヲ造成ス内層ハ環狀纖維ヲシテ亦  
同ク聯續ノ一層ヲ造成シ、下行スルニ隨テ、漸次  
ニ増厚シ、終ニ滯積シテ、厚キ小筋束ト為ル之ヲ  
肛門内括約筋クゼイン、オヴ、ゼ、ア、ニ、ス、ト云フ  
經筋纖維ハ、内括約筋ノ下縁ヲ擁シテ、其筋ト粘  
膜トノ間ニ、少ラク上行スル僅カナル者ノ他ハ、  
悉ク兩括約筋ノ間ニ終ル茲ニ又夕肛門舉筋モ  
歸着シテ、直腸ノ下部ヲ、各側ヨリ圍擁セリ  
纖維層ハ亦夕他ノ者ヨリモ厚ク、且ツ強剛一シ

乙  
コロムニイ、カルニ  
モルカニ

乙  
シユス、モルカニ

テ擴張ス可シ  
粘膜ハ其構造結腸ノ者ニ異ナラス、然レモ尿管  
ヲ富有シ、且ツ下端ニテハ其色鮮紅ナリ而テ不  
整ハ皺ヲ多有シ、其皺翻展時ニハ喪凶ス、肛門ニ  
近キ處ニ、會湊セル縱襞ヲ造為ス、之ヲ直腸柱直腸柱  
ロムス、オヴ、ト云、此襞屢下方ニテ相聯續シ、其間  
隙ニ、小室ヲ形成スルトアリ、之ヲ肛囊肛囊  
アニユト云フ  
通常直腸ノ外部ニ在ル三個ノ縮小部ト、同位置  
ニ於テ、粘膜モ亦夕三個ノ潤キ半日狀皺襞ヲ具



へ以テ辨ノ作用ヲ為セリ  
動脈ハ、下腸間膜、内腸骨、及ヒ内精動脈ノ痔脉支  
ナリ、静脈ハ、數多ニシテ、下部ニ於テハ錯雜セシ  
網狀ヲ造成ス之ヲ痔脉叢ルゼ、ヒモロイダト云フ  
是レ血液ヲシテ、下腸間膜、内腸骨ノ兩静脈ニ還  
流セシムル者ナリ、此脉叢、肛縁ニ在ル者膨大ス  
レハ、乃チ痔血ヲ發ス水脉ハ、薦骨腺及ヒ腰腺ニ  
進行ハ神經モ亦々數多ニシテ、交感系ノ下腹叢  
及ヒ近傍ノ脊髓神經ヨリ來レリ  
肛門諸筋ハ、會陰ニ関與スルヲ多シ、故ニ細解ハ、

姑ク其條ニニ讓ル

脾

甲脾リゼ、パンクハ、長平ノ腺ニシテ、第一ノ腰椎ニ對

甲  
パンク  
ラテヨム

シテ、胃ノ后方ニ占居ハ乃チ右肋下部ニ於テ、十  
二指腸ノ下行部ヨリ始リ、横行部ニ沿テ、上腹部  
ヲ過キ、左肋下部ニ至リテ、脾ニ達ス而テ全徑、十  
二指腸ニ密接シ、后方ハ、結締組織ニ由テ、横膈脚  
大動脈、下大静脈、上腸間膜血管ニ後着セリ、上腸  
間膜血管ハ、此腺ノ溝中、時トシテ其全管中ニ占  
居ス前ハ、横行結腸網膜ノ上行層ニ联接シ、上縁



甲 乙。フト。パンクリテス

乙 カキタ

ニハ溝ヲ具ヘテ脾血管ヲ居ラシム  
 脾ハ帶赤白色ニシテ甚ク唾腺ニ類ス然レモ此  
 スレハ稍ヤ柔軟ニシテ組織ニ亦タ寬鬆ナリ其  
 丈ケ六乃至八「インチ」アリ右端ヲ頭「ドヘツト」云ヒ  
 左端ヲ尾「レテイト」云フ而テ頭ハ最モ大ニシテ漸  
 次ニ尾ニ至ルニ隨テ狹小ス中等ノ者ニ於テ其  
 深サ略ホ一「インチ」半厚サ半「インチ」重量ハ二乃  
 至二「オンス」アリ件ノ頭ハ十二指腸ノ下行部ノ  
 内側ニ密着シ而テ其一部屢離居スル「ア」リ然  
 レキハ之ヲ小脾「ゼレサパン」ト云フ

甲 パンクリアス、ミユス

乙 ドクトス、パンクリア  
テクヌ

其構造ハ葡萄狀ニシテ數多ノ多稜ナル葉及ヒ  
 小葉ヨリ成リ結締組織ニ由テ寬ク會着ス  
脾管「ゼ、パン」ニ通常二個ノ主枝アリ其一  
 ハ長大ニシテ一ハ比スレハ細小ナリ而テ甲者  
 ハ腺体ヲ左ヨリ右ニ經過シ末端ニ近キ處ニ於  
 テ脾頭ヨリ來ル枝即チ乙者ニ會合シ脾ヲ辞シ  
 テ十二指腸ノ壁ヲ穿テ胃ヨリ畧ホ四「インチ」下  
 ニテ総胆管ニ近ツキ若クハ會合シテ腸内ニ開  
 ロス

動脈ハ脾十二指腸動脈脾動脈ヨリ來レリ靜脈



甲  
リククペンクルテス

ハ脾静脈、上腸間膜静脈ニ交通ス。水脈ハ、腰腺ト交通シ、神經ハ、交感系統ノ太陽叢ノ分支ナリ。  
**脾液** テゼ、パンクウス ハ、清澄無色、稍粘稠ニシテ、アルカリ性ノ反應ヲ有ス。其内ニ、一種ノ蛋白樣質ヲ含メリ、**脾液素** アパンクリト 云フ。食物ノ脂油質ヲ分解シテ、油乳ト為スニ、最要ノ者ナリ。

肝

甲  
ヘパール

**肝** ウゼ、リウアル ハ、体中最大ノ器ニシテ、真ノ腺樣ナリ。右肋下ノ大部ヲ領シ、上腹部ヲ過キテ左肋下ノ小部ニ及ブ。其形狀、半橢圓ニシテ、長徑ヲ以テ横居

シ、上面ハ凸ニシテ、横膈ニ密貼シ、下面ハ殆ト平カ、若クハ稍凹シテ、胃十二指腸、結腸、右腎ニ能接ス。前方ハ、劔狀及ヒ肋軟骨、後方ハ、横膈脚、大動脈下大静脈ニ關係セリ。而テ腹膜ノ翻轉物、即チ**鞞帶** セ、ソリガメント **左右側鞞帶** セ、ライト、エン ド、レフト、ラテ ラ、ル、ト ガ 其他、後縁ヲ附着セシムル結締組織ヲ以テ横膈ニ提繫ス。

右部ハ、左部ニ比スルニ、甚タ大ク、且チ厚クシテ、其位置モ、亦タ固定セリ、而テ腹内ニハ、最モ低ク、胸内ニハ、最モ高ク展達ス。後右方ノ縁ハ、厚圓ナ



レ氏、前左方ノ縁ハ、薄銳ニシテ、収モ移動シ易キナリ。五ノ葉ハ、圓形ニシテ、而テ、其ノ葉ハ、肝ハ、其組織強實、面上滑澤ニシテ、帶赤褐色ナリ。屢、多少ノ黄色ヲ有ス、是レ質中ニ脂肪ノ存スルニ由ル。又夕時トシテ、表面ニ鉛藍色或ハ紫色ノ斑紋ヲ呈セリ。其ノ葉ハ、其重量、三四ポント、其徑度左右ハ、十乃至中ニシテ、前後ハ、畧ホ六、上下ハ、其最廣部ニ至ル畧ホ三、インチアリ、而テ通常婦人ニ於テハ、概テ其五分ノ一ヲ減ス、對照ニ容積ハ、不詳ニシテ、其葉ハ、

甲  
ロープス、テキスタイル

肝ヲ左右ノ二葉ニ區別ス、其手段ハ、横膈ノ中線ヨリ、上面ニ延布スル繫靱帶ト、同一ノ方向ニテ、下面ニ存スル縦披裂トニ由テス、而テ其葉ノ大小ハ、左右甚々不齊ナリ。右葉ハ、其大サ左葉ニ四五倍ニシテ、方形ナリ、而テ右側靱帶ノ離隔セシ、翻轉物ノ間ニ於テ、結締組織ヲ以テ、後縁ヲ横膈ニ密着ス。上面ハ凸、下面ハ右腎、胃ノ幽門端、結腸ニ親接ス。下面ノ前部ニ、一窩ヲ具ヘ、胆嚢ヲ居ラシム、其左後方ニ、一個ノ小部アリ、之ヲ方葉、尾葉ト云フ、

解剖

總論

三



左葉セ、レ、フ、ト、ロ、フ、ハ、比、ス、ル、ニ、薄、ク、シ、テ、三、角、  
 形ナリ左側鞅帶ニテ寬提シ乃チ移動ス可シ下  
 面ハ胃ノ前部ニ親接シ後方ハ胃ノ上口ト關係  
 ス  
 兩葉俱モ、向キノ區別ノ外、尙チ前後ノ縁ニ於テ、  
 截痕ヲ有シ、以テ分畫ス前截痕セ、ア、ン、テ、リ、ハ、尖  
 銳ニシテ、下方ハ縦披裂ニ聯續シ、後截痕セ、ホ、ス、  
 ノ、ツ、ハ、廣、四、ニ、シ、テ、脊、椎、柱、ト、其、前、ニ、存、ス、ル、大、血  
 管トヲ居ラシム右葉ニ於テ、後截痕ノ深部ニ、下  
 大靜脈ヲ居ケリ、而テ時トシテ、其周回ニ已ノ質

甲  
 ノレキス、ア、ニ、テ、ロ、ホ、  
 ス、テ、リ、オ、ル、シ、テ、ト、ス、  
 乙  
 ソ、カ、メ、シ、ト、ム、テ、イ、レ、ス

ヲ延展シテ、一ノ全管ヲ造為シ、以テ彼ノ靜脈ヲ  
 回擁スルヲアリ後截痕ノ上ニ於テ、繫鞅帶ノ二  
 層、相離隔シ、側鞅帶ノ前部ト聯接シテ、三角形  
 ノ空隙ヲ存シ、茲ニ結締組織アリテ、肝ヲ横膈ニ  
 附着ス

縦披裂セ、ロ、ン、ダ、ヒ、ル、デ、ハ、下、部、ニ、存、ス、ル、深、溝、ニ、シ、  
 テ前後截痕ノ兩間ニ達シ、以テ左葉ト右葉ヲ分  
 畫シ其前部ハ、間、肝質ノ橋ニテ横過シ、圓鞅帶セ、  
 ガ、ノ、ン、ト、リ、ト、稱、ス、ル、纖、維、帶、ヲ、含、有、ス、是、レ、胎、兒、ノ  
 氏ノ臍靜脈實塞セシ者ナリ其後部、纖維帶ヲ含



甲 ソルコスダランスズ  
ルッス、  
全 シヨリスホルターロム

乙 ロビュルスコトドラー  
トス、

丙 ロビュルススピゲ  
リ

有ス、亦々胎兒ノ肝ノ静脈管ノ實塞セシ者ナリ  
横披裂ルセ、ダランスズハ、縦披裂ト直角ヲ為シ、方  
葉ト尾葉ノ間ニ經過スル、深溝ニシテ、右葉ノ下  
部ニ終ル。是レ血管、神經ノ由テ入り、水脈、排泄管  
ノ由テ出ル處ナリ。  
方葉セ、コワドルト、ロハ、肝質ニテ成ル、其部方  
形ニシテ右ハ胆嚢ト、左ハ縦披裂トノ間ニ占居  
シ、前方ハ肝ノ前縁ヨリ、後方ハ横披裂ニ達ス。  
尾葉セ、カウブト、モ亦々肝質ニテ成ル、鈍キ三稜  
形ノ小塊ニシテ、横披裂ノ後口ニ在テ、後截痕ニ

甲 ロビュルスガウブ  
トス

達ス。而テ左ニ縦披裂、右ニ下大静脈溝アリ。下大  
静脈ノ前ニ於テ、短峽、即チ尾突起カウブト、ヲ  
以テ、右葉ノ下面ニ聯合ス。  
肝ノ血液ヲ受ルヤ、其源ニアリ、是レ体ノ諸器中  
ニ於テ、特異ナル所以ナリ。其一ハ視ニ小ナル脈  
管、即チ肝動脈アセ、ハパテクニシテ、爰ヨリ鮮紅ノ  
血液ヲ受ク。一ハ、大ナル脈管、即チ門脈セ、ポルタル  
ニシテ、爰ヨリ暗赭ノ血液ヲ受ク。此二脈ハ、横披  
裂ヨリ穿入シ、各分レテ兩支ト為リ、其支乃チ左  
右ノ葉ニ往キ、後チ又各離散シテ、下方ヨリ上方



甲  
ド  
ネ  
ス  
リ  
ク

且ツ肝縁ニ向テ分支セリ而テ其動脈ハ靜脈ノ前ニ在ルナリ

胆管ドセ、バイルハ、肝質中ニ起リ右ニ論スル所ノ血管ノ行路ニ會轉シ、横披裂ヨリ辞シ去ル乃チ

一ハ右葉ヨリ、一ハ左葉ヨリ出テ會合シテ肝管ドセ、ヘパトノ幹ヲ造成ス、

數多ノ水脈ト、肺胃神經及ヒ交感神經ヨリ來レ  
ル神經ハ、亦々右ニ論スル所ノ血管及ヒ肝管ニ

伴行シテ、相共ニ結締組織ニテ全包ス  
肝靜脈ドセ、ヘパステクハ、血液ヲ肝質ヨリ聚ノテ總

循環ニ還流セシム乃チ肝ノ末梢部ニ始リ、前方

ヨリ後方ニ辞シ去リ、後截痕ニ於テ、不大靜脈ニ

交通スル、二個ノ宗幹ニ終レリ

肝靜脈ト、他ノ肝血管ト、相關與スル位置及ヒ景

況ハ、甚々紛雜ナリ、乃チ恰モ一箇ノ倒樹ト、數箇

ノ立樹ト、互ニ其枝極ヲ以テ交叉混亂セシ者ノ  
如シ

肝造構

肝ハ、其後縁、繫韌帶及ヒ側韌帶ヲ層隙、諸披裂ノ



甲  
レ  
キ  
マ  
ヘ  
ハ  
ス

ス清膜下ノ結締組織ハ、發育幽微ナリ、然レ肝  
 体中、腹膜ニテ被覆セサル部ハ、其組織ノ強厚ナ  
 ル延展物ニテ包裹シ、以テ横披裂ニ於テ、他ノ結  
 締組織、即チ血管及ヒ肝管ヲ包ム所ノ者ニ联接  
 ス、肝ノ實體ヲ〔肝質〕 ア、セ、ヘ、パ、テ、ク、ソ、ト云フ、赤褐色  
 ニシテ、黄色ヲ交ヘ、滿面一様ニ細點ヲ呈セリ、其  
 點ヲ呈セリ、其點ハ、平等族、例ヘハ家猪ノ如キニ  
 於テ、特ニ瞭然タリ  
 肝質ハ、容易ニ綻裂スヘク、而テ其裂面ハ、粗糙ノ  
 粒状物ヲ存ス、此粒状物ハ、即チ所謂細點ニシテ、

甲  
ア  
シ  
ニ

其形状、稜角多ク、直径、半乃至一「ライン」アリ、之ヲ  
〔肝〕ノ小葉〔ア、セ、ロ、ビ、ル、ス、ト云フ  
 小葉ト、血管胆管トノ關係ヲ搜慕スルニ、肝静脈  
 ノ末支ハ、各葉ノ中軸ヨリ始リテ、基礎ヨリ出テ、  
 會合シテ、稍マ大支ト為ル、故ニ静脈、小葉ヨリ起  
 來スル景况ハ、恰モ木葉ノ心線ト、莖トニテ、枝ニ  
 連ルカ如シ  
 門脉、肝動脈、肝管ハ、結締組織ニテ、相結束シ、肝質  
 ノ固有管〔門脉〕内ヲ過キ、後チ支分以テ其静脈  
 支ニ關係シテ言ヘハ、皆十同一ノ總路ヲ取ル



八、既ニ肝靜脈ノ条下ニ論セリ件ノ諸脈管ハ終  
 ニ小葉間ニ支分シ、脈絡叢ヲ形成シ、以テ各葉ヲ  
 結合ス人ニ於テハ、件ノ脈管、主ニ小葉ヲ結合ス  
 レ氏、家猪ノ如キニ於テハ、鏡多ノ結締組織ヲ交  
 エルヲ以テ各小葉ノ外圍愈劃然ト看取スヘシ  
 小葉ノ間隙ヲ領スル門脈、肝動脈ノ末稍支ト、其  
 中軸ニ存スル、肝靜脈ノ起端支トノ間ニ網狀毛  
 細管アリテ、相ヒ錯綜ス、故ニ血液ノ門脈、肝動脈  
 ヨリ、肝ニ入ルマ、進行シテ、小葉間ニ達シ、然ル後  
 肝靜脈ノ始端ニ届ルマデハ、毛細管網ヲ經テ、

甲  
 ハテクゴアホスクルス

紆曲廻流セリ、  
 毛細管網ノ眼、即千間隙ハ、分泌ノ本成体、即千  
 セル<sup>ク、セ、ヘ</sup>ル<sup>パ</sup>ステ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>充<sup>テ</sup>填<sup>ス</sup>其<sup>セ</sup>ル<sup>其</sup>セ<sup>ル</sup>ハ、  
 不整且ツ多稜ニシテ、直徑一<sup>イ</sup>ン<sup>チ</sup>ノ一千、乃至  
 二千分ノ一ナリ、而テ柔軟ナル粒狀物ト、核トヲ  
 含蓄ス、或ハ微細ノ油球ヲ含ム者モアリ肝<sup>セ</sup>ル  
 ノ網眼ヲ領スルマ、其二顆ノ直徑ヲ以テ、略ホ充  
 填スルヲ通例トス、然レ氏屢一顆ニテ、横居スル  
 フアリ

前件ノ辨説ニテハ、小葉ノ造構ハ、毛細管網ノ間



隙ニ於テ、肝セル網ヲ夾襖セシ者タルヲ瞭然タ  
リ、是レ解剖學者ノ實驗シテ、決定セシ所ナリ然  
レ肝セル網ト、胆管ト、相關係スル方法ノ至精  
至密ニ至テハ、其說甚々區々ナリ、或ハ肝セル網  
ハ、實塞シ、胆管ハ、小葉ノ邊境ヨリ起ルト云ヒ、又  
タ肝セル網ノ間ノ道路ト、小葉間ニ在ル胆  
管ノ起端ト、相交通スルト云ヒ、又タ至薄ノ基膜  
管ヲ以テ、別ニ網ヲ形成シ、毛細管網ト、肝セル網  
トヲ夾雜シテ、小葉間ノ胆管ニ、联接スト云ヒ、又  
タ肝セル網ハ、只タ基膜ノ管ヲ裹包スルヲ、他ノ真

腺ニ同久而テ其管ヨリ、小葉間ニ於テ胆管ヲ起  
スト云ヘリ

胆管及ヒ胆囊

甲  
ドクトス、ハ、パテクス

胆管クセ、ドクパトハ、二枝ヲ以テ、肝ノ横披裂ヨリ始  
マリ、門脈ノ前、肝動脈ノ右ニ在テ、胃肝網ノ右縁  
内ヲ下行シ、其丈ケ略、二「イン」チアリ、而テ胆囊ヨ  
リ來ル輸胆管クセ、ドクト、會合シ、乃チ總胆管カセ、  
ト、ドクリアヲ造成シテ終ル、

乙  
シキユス、ビリス、

胆囊ブセ、ラゴトハ、胆汁ヲ貯蓄スル者ニシテ、梨子  
狀ノ如ク、即チ底、体、及ヒ頸ヲ有シ、而テ其半ハ右



葉ノ下部ノ前方ニ在ル窩中ニ藏居以底ハ第十  
 肋軟骨ノ近傍ニ於テ肝ノ前縁ヲ起ヘテ挺出シ  
 体ハ後方ニ向テ延長シ頸ハS字狀ニ廻轉シ横  
 披裂ニ於テ輸胆管ト為テ終レリ  
 胆嚢ハ結締織ニ由テ肝質ノ窩中ニ附着シ其底  
 遊離シテ他ノ遊離部ト共ニ腹膜ニテ包裹以腹  
 膜ノ他ニ壁ニ於テ纖維組織ノ強層ト灰白色ノ  
 無紋筋纖維ノ薄層ヲ具フ裏包ノ粘膜ハ一様ニ  
 微細ナル網狀ノ皺襞ニテ被覆シ柱狀内皮ヲ具  
 一居恒ニ胆汁ニ染ミテ黄色ト為レリ

申  
 ドクトスセステク  
 ス、

乙  
 ドクトスゴシニス、  
 コンドクス、  
 ドクトスヘパトセス  
 ラクス、

胆嚢ハ血液ヲ肝動脈ノ一支即チ胆嚢動脈ヨリ  
 受容シ静脈ニ由テ門脈ニ還流セシム  
 輸胆管申クセドクストテハ丈ケ略一「インチ」アリ左方ニ  
 下行シテ肝管ト直角ニ聯合ス裏膜ハ一列ノ斜  
 ナル皺襞ヲ具ヘ其皺襞即チ螺旋瓣ヲ形成シ以  
 テ胆汁ノ流注ヲ緩徐ナラシム  
 総胆管乙アゼカマンヒリハ肝管ト輸胆管ト相會合  
 シテ成ル者ナリ丈ケ略三「インチ」幅ハ太キ鷲翅  
 幹ノ如シ胃肝網ノ右縁ニ沿テ十二指腸下行部  
 ノ後右方ニ達シ乃チ胃ノ略四「インチ」下方ニ於







甲ホルスリーニス

三四ノ腰椎ニ對シテ、横膈ニ親接シ内面ハ其前  
 及ヒ後部稍々扁平シ、中部ハ凸クシテ右側ニ向  
 ヒ胃ノ盲嚢ニ抵觸シ、胃脾網 ゲカストロスレニ  
クホーメンタム  
 爰ニ附着ス、後縁ハ厚クシテ圓ク、隣接ノ腎ト、横  
 膈トニ對ス、前縁ハ稍々薄ク、通例、其下部ニ於テ、  
 一二ノ截痕ヲ呈ス、  
 内面ノ中部ニ、幽微ノ一溝アリ、脾門 ゼ、ヒート云  
ロス  
 ノ血管神經ノ出入スル所ナリ、  
 脾ハ健康体ニ於テモ、態積大ニ變易ス、殊ニ疾病  
 ニ由テハ、非常ノ變化ニ罹ル、ア、リ然レモ通

例丈ケ四五「イン」幅ハ三四「イン」厚サ一「イン」  
 子乃至其餘半ニシテ重量略ホ六「ボ」ンスアリト  
 ス而テ二層ノ膜ヲ具ス、其外者ハ、清膜層ニシテ、  
 内者ハ、彈力性ノ纖維膜層ナリ、  
清膜層ハ、底下部ニ密着スル、菲薄透明、且ツ滑澤  
 ナル者ニシテ、腹膜ヨリ轉來ス、纖維層ハ、適宜ニ  
 強ク、且ツ擴張ス可キ者ニシテ、其造構、纖維組織  
 ノ錯綜中ニ、彈力組織ノ纖維ヲ交ユル小束ヨリ  
 シ、而テ脾門ニ於テ、同組織ノ包膜ニ联接ス、此包  
 膜ハ、血管ヲ包裹シ、其枝別ニ隨テ脾ニ入レ、

解剖學

卷之四

三十一



脾ハ其質容易ニ綻裂スヘク其裂面ハ濃暗赤色  
 ニシテ血液ノ凝固セシカ如ク容易ニ刮取スヘ  
 シ之ヲ脾軟塊セ、ス、プル、レト云フ又夕脾ノ一部  
 ヲ取テ數回洗滌スレハ彼ノ軟塊悉ク脱落シテ  
 唯海綿状塊ノミヲ留ム此塊ハ血管ト所謂纖維  
 彈力組織ノ小束ト無數相組會シテ成レリ  
 件ノ小束ヲ織材タ、ラ、ベ、トト云ス即チ内層ノ内面  
 ヨリ起リ恰モ海綿状ノ如ク間錯シテ網形ヲ成  
 込而メ血管ヲ保支シ且ツ其網眼中ニ所謂脾軟  
 塊ヲ含蓄ス

解剖學 卷之十

脾軟塊セ、ス、プル、レニテ照ラスニ左ノ  
 諸原質ヨリ成ル其一許多ノ血球ナリ是レ變化  
 ヲ受サルモ亦夕分解シテ種々ノ形態ヲ呈スル  
 者多シ二微細ノ粒状物ナリ是レ一分ハ無色ナ  
 レ他多分ハ赤色ヨリ褐色ニ化成シテ濃淡種々  
 ノ者アリ三許多ノ分離セシ核体ナリ四無色ノ  
 有核セルナリ五僅少ノセルナリ是レ分解セシ  
 血球ヲ含有ス六赤色ノ針状晶ナリ是レ血球ノ  
 分解シテ生スル者ニシテ時々存セリ  
 以上ノ原質其互ノ關係且ツ血管ト關係スル方

解剖學

卷之十



法ハ未々十分ニ詳明ナラス

爰ニ又々許多ノ小圓ナル白物アリ、細動脈ノ外

側ニ附着ス、又々軟塊中ニモ埋居セリ之ヲ脾球

スプレックラト云フ其多寡大小一定セス然レ

モ通例直徑略ホ一ラインノ六分一アリトハ其

構造ハ腸ノ撒布腺ニ類似セリ

脾ハ其大サニ視フレハ甚々血管ニ富メリ乃チ

動脈ハ先ツ脾門ノ側ニ於テ其支六個以上ニ支

別シ以テ脾ニ入り又々無數ニ支別シテ實質中

ニ彌蔓ス但シ其主タル者ハ吻合ニルコトナク而

甲コルホラマルヒギ

テ遂ニ饒多會合シテ筆狀ノ小束ト為リ以テ軟塊中ノ毛細管ニ終レリ靜脈ハ動脈ニ行ス其數ハ相ヒ一致スレモ稍ヤ大ナリ水脈ハ他ノ腹部諸器ニ較フレハ僅少ナリ神經ハ交感系ノ大陽叢ヨリ來レリ

脾ノ官能ハ之ヲ驗查セシテ百手千段ナレモ未タ的知スルコト能ハズ由テ假リニ消化器休息ノ間ト總テ体ノ表部ヨリ内部ニ向テ多ク輻湊スル時トニ於テ其血液ヲ貯蓄スル者ト推定シ且ツ血球其作用ヲ畢リシ後チ分解ヲ受ケ以テ化

脾ノ官能

消化器

血液



學的原質ヲ循環ノ血液ニ賦與スル處ト看做シ  
其他又血球ノ資源スル處ト推定セリ

解剖訓蒙卷之九終

啟蒙義舎藏版

發兌書肆

大森心齋橋通唐物町

淺井吉兵衛



